

報 道 各 位

一般社団法人日本船用工業会

令和 6 年度「若手・新入社員教育研修」を実施

当工業会は、人材養成対策事業の一環として、8 回目となる「若手・新入社員教育研修」を、8 月 28 日（水）～30 日（金）に 2 泊 3 日の合宿形式で東京にて実施し、会員企業 14 社から 30 名が参加した。

本研修は、今後の船用工業を支える若手・新入社員が、①社会人としての考え方やマナー等を身に付け、②船用工業を含む日本の海事産業全般に関する基本的知識を学ぶとともに、③業界内で相互交流する機会を提供することを目的としている。

研修初日は、当工業会の人材養成検討委員会アドバイザーである小野正治氏（当工業会 顧問／元富士貿易㈱ 代表取締役会長）、矢野吉治氏（神戸大学 名誉教授／元同大学練習船・深江丸 船長）及び当会常務理事の市川による講義を実施し、海事産業全般の基礎知識の習得、船用工業の現状と課題など業界を取り巻く状況の理解などに努めた。また研修生の紹介をペアで互いに紹介する形式で行い、講義終了後には交流会を行うなど、講師はじめ研修参加者相互の交流を図った。

研修 2 日目は、午前中にビジネスマナー講座を実施し、グループワークも交えながらビジネスマナーを学んだ。午後は、京浜ドック株式会社の子安工場を訪問し、工場設備や上架中のタグボートの船橋や機関室の見学を行い、実際の機器搭載現場の理解を深めた。自社製品が搭載されていたメーカーの参加者からは「実際に船内で運用されている自社製品を見るのは初めてで、大変貴重な機会だった。」といった感想があった。工場見学終了後、当会業務部長中村の講義で安全・環境対策の重要性について理解を深めた。懇親会では乗船体験を通じて研修生同士が交流を深めた。

研修 3 日目は、グループワークとしてビジネスゲーム「The 商社」を実施。経営者視点のロールプレイングを通じて「今後自社及び業界にどのように貢献していくか。」という問について各自の考えをまとめ、研修生からは「業界の横の連携を強化し、環境規制等の様々な課題に取り組んでいきたい。」といった回答があった。

当初は緊張した面持ちであった研修生も、3 日間の研修を通じて次第に交流を深め、最終日のグループワークでは活発に意見交換を行うなど積極性が見られ、自社に帰ってからの今後の活躍が期待できる研修結果となった。

記

1. 実施期間：令和 6 年 8 月 28 日（水）～8 月 30 日（金）
2. 研修場所：L stay&grow 晴海（東京都江東区）
3. 施設見学：京浜ドック株式会社 子安工場
4. 参加者：14 社 30 名（平均年齢：25.1 歳）

（株）オリジン、（株）カシワテック、極洋電機㈱、（株）ジャパンエンジンコーポレーション、
ジャパンマリユニテッド㈱、ダイハツディーゼル㈱、大洋電機㈱、トラテック㈱、
ナブテスコ㈱、阪神内燃機工業㈱、BEMAC㈱、（株）日立ニコトランスミッション、
富士貿易㈱、ヤンマーパワーテクノロジー㈱

5. 研修内容：

目的	研修科目	講師
船用業界の現状を多角的に学ぶ	船用工業の現状と課題	事務局
	船用工業における安全環境対策の重要性	
	船用工業のグローバル戦略について	小野 アドバイザー
	船の四方山話	矢野 アドバイザー
社会人として必要な心得を身に付ける	ビジネスマナー講座 ①学生と社会人の違いを考える ②チームに貢献する仕事の進め方	(株)インソース
時間的制約の中での確に相手に情報を伝える	研修生自己紹介	
技術開発の現場を学ぶ	造船所見学（京浜ドック株）	
船用業界についてチームで考える	グループワーク （ビジネスカードゲーム「The 商社」）	(株)プロジェクト デザイン
諸行事	オリエンテーション、交流会、修了式等	

以上

(事務局問合せ先) 業務部 山内 TEL: 03-3502-2041



講義の様子



研修生による自己紹介の様子



懇親会（初日）の様子



懇親会（2日目）の様子

※屋形船で実施



ビジネスマナー講座の様子



造船所見学の集合写真



造船所見学の様子



グループワークの様子

以上